

玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（宇野中・玉中・日比中）説明会  
会議録（概要）

日 時：令和7年6月2日（月）19:00～20:30

場 所：日比公民館

対 象：日比地区住民、向日比地区住民、御崎地区住民、渋川地区住民

参加者：16名

## 1 ご質問

○災害面だと宇野中より日比中の方が高台で安全だと思うが、何故、日比中ではないのか？

→宇野中、玉中、日比中の学区を1つにした際、学区のほぼ中心に宇野中が位置するためです。災害時に宇野中では近くの高台にある築港小学校へ避難するため、避難訓練を行うなど、生徒の安全確保ができるよう対応します。

○玉中と日比中でまずは統合することはできませんか？

→2校での再編も検討しましたが、中学校では全教科に教員が配置されるには少なくとも1学年3学級が必要となりますが、玉中と日比中の統合では1学年2学級にしかならず、しばらくすると1学年1学級になることから、宇野中を含めた再編にしています。

○少子化が進んでいますが、再編したら1学年3学級になるとのことですが、いつまで3学級が維持されますか？

→計画では令和28年度に1学年2学級になる学年が出てくる推計になっています。

○山田中と東児中の再編のように、再編しても1学年1学級にしかならない中学校があるなら、日比中を残すことはできませんか？

→山田中と東児中の再編については、適正配置の観点から東部に1つ学校を残す再編内容としています。

○八浜中は再編時期が数年延びているが、日比中の再編時期を延ばさなかった理由は？

→八浜中は1学年2学級の状態が続くため、再編時期を1学年1学級となる時期まで変更しましたが、日比中はすでに1学年1学級となっており、早期に再編が必要であるため、再編時期を変更していません。

○渋川から自転車で宇野中に通うには距離も遠いし、道も細く危険であるため、現実的ではないと思いますが？

→渋川については通学距離が6km以上であるため、バス通学となります。

○計画を改めて、日比中と玉中での再編としてもらわないと説明会の意味がありません。

→計画は4年前から検討し、様々なご意見を踏まえて、昨年度末に策定したのになりますので、計画を白紙にするようなことは考えていません。各説明会でいただいた意見を踏まえて、どの段階で再編準備委員会を設置していくかを教育委員会で判断したいと考えています。

○再編がまだ決まっていないのに、他の学区の学校に行くことが許されていると聞きましたが本当ですか？

→指定校変更という制度があり、様々な理由で指定学校とは異なる学区の学校へ通うことができるようになっています。

○1学級の生徒数を15人や20人にすれば現状でも2クラスにできますが、1学級の生徒数に決まりがありますか？

→1学級あたりの児童・生徒数は国が定めており、小学校は児童35人、中学校は生徒40人となっています。これよりも少ない人数で学級編成をした場合、それにより増える学級の教員は市独自で採用をしなければなりません。

○この計画の人口推計と玉野市の最上位計画である玉野市総合計画の人口ビジョンが違うのはどうしてですか？

→本計画の人口推計は直近の人口減少率を加味し、コーホート変化率法を用いた現実的なものとなります。総合計画の人口推計は移住者を増やすなど、様々な施策により人口減少に一定程度の歯止めをかかった場合の目標値を掲げたものとなっています。

○部活動ができる環境を整備しないといけないのに、バス通学だと部活動をする時間がなくなるのでは？

→市内の中学校は最終下校時刻を 17 時としているため、部活動をして 17 時には下校となります。バスは授業終了後と部活動終了後で 1 便ずつの運行を考えているため、バス通学でも部活をすることは可能です。また、現在の中学校では、小規模化により部活動がそもそも成り立たない状況でもあるため、そうした点も再編理由の 1 つとなります。

## 2 ご意見

○南海トラフ地震もあるから学校はまとめて分散させて、日比中は残せばいい。

○1 学年 1 学級で人数が少ない方が良い教育ができているので、玉中と日比中を再編し、日比中を使用すれば良い。